

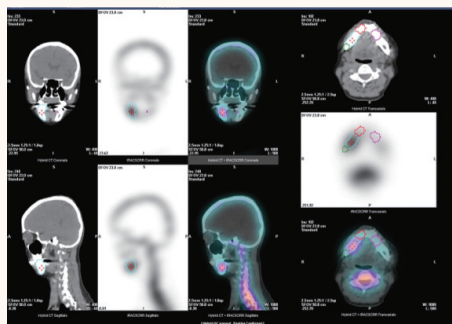
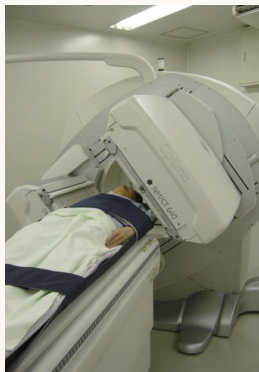
校友会 特別表彰

将来の歯科界を担う学生達が、 自らの研究成果を競う

令和3年8月20日、日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会に、新潟生命歯学部4年の田邊由佳さんが出場しました。

SCRPは、国際歯科研究学会米国部会・歯科医師会等が主催する、歯科学生によるグローバルな研究発表大会です。日本大会は1995年度から始まり、全国の歯科大学・歯学部の学生が研究成果やプレゼンテーション能力を競い、新潟生命歯学部は第一回大会から出場しています。

田邊さんの研究テーマは「SPECT/CTを用いたMRONJの定量分析」で、歯科放射線学講座の小椋一朗教授の指導の下、3年次から少しずつ画像データ解析をおこない、試験の合間や土日など限られた時間の中で研究をまとめあげました。新型コロナウイルス感染症の影響でWeb開催となった今大会には、21校が参加し、事前抄録・発表ビデオ・発表スライドによる一次審査、英語でのオンライン発表による二次審査を経て、最終結果が発表されました。惜しくも優勝、準優勝は逃しましたが、田邊さんには校友会より特別表彰として金一封が贈られました。



いつかやりたい富士見祭 — 第65回開催に向けて —

コロナ禍のため去年、今年と2年連続で中止になってしまった富士見祭。毎年11月初めに開催していた、学生会が主催する一大イベントでありました。いつもの正面玄関やメモリアルホールが富士見祭のときは華やかに飾り付けられ、いつもとは違う非日常の雰囲気だけでも盛り上がります。各クラブが模擬店などを出店したり、音楽系のクラブはミニコンサートをやったりと毎年実行委員会が様々な催しを考えて、楽しい2日間になるよう計画されていました。生命歯学部の学生がメインですが、東京短期大学からも模擬店やイベントの開催もあります。また、富士見祭には一般の方も参加でき、無料歯科検診が毎年好評となっています。

メインイベントは富士見ホールでおこなわれる芸能人によるコンサートやお笑いライブであり、最終日の最後を飾ります。2022年はコロナが終息して、富士見祭の盛り上がりが再び戻ってくることを期待しています。



写真は2018～2020年度の富士見祭風景

生命歯学部

生命歯学部スキー部は、現在8名が所属しています。昨今はコロナウイルスの流行で部活動の停止を余儀なくされていますが、平時であれば、前期は火曜日、後期は火曜日と木曜日が活動日となっており、主にフィジカルトレーニングをしています。加えて、ゴールデンウィーク、冬休み、春休みの合宿でスキーの練習をして、年度末の大会に備えます。特に合宿ではコーチが付くため、



生命歯学部4年
米窪 清仁

とても充実したトレーニングを積むことができます。また、夏休みの合宿ではスキーこそしないものの、合宿先の湖でサップを通してトレーニングをしたりもします。

スキー部は、先輩後輩の

関係が良好な部活で、部活のトレーニングだけでなく、プライベートな話や勉強面でも、先輩方の存在は精神的な支柱になります。また、日本歯科大学附属病院にはスキー部のOB先生方が数多く勤務されており、実習の際には非常に頼れる存在になっています。

部活動は大学での生活を彩る大切な要素です。コロナ禍以前の、部活動を楽しめる日常が戻ることを心待ちにしております。



新潟生命歯学部

新入生の皆様、スキー部代表の今野優人です。

スキー部は現在20人ほどが所属しており、活動は一昨年までは月曜日と水曜日の週二回おこなっていました。



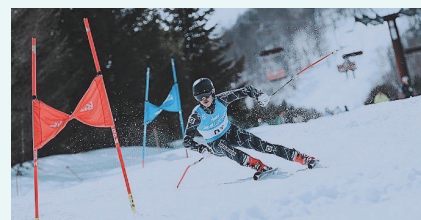
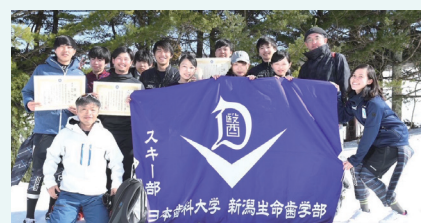
新潟生命歯学部4年
今野 優人

スキーは基本、冬か、春の初めにしかおこなえないため、普段の活動内容はランニングや筋トレなどの基礎トレーニングをおこなった後、部員みんなで体育館でおこな

えるスポーツを決めて、バスケットボールやフリスビーなどをやっていました。

スキー部は他にも生命歯学部との交流合宿、全国の歯学部生が集まるスキーの大会などがあり、イベントも盛り沢山です。もしスキー部初心者の方でも優しい先輩が教えてくれますし、入部時には初心者の部員もたくさんいますので、スキーの腕は全く心配ありません。

運動不足を解消したい、スキーができるようになりたい、優しい先輩方に相談できる場が欲しいなどありましたら、スキー部は力になれると思いますので、興味がありましたら皆様のご連絡をお待ちしております。



新潟 地区別校友会紹介

新潟県校友会は416名の会員から構成されており、新潟県歯科医師会会員数は1,270名でその約1/3は我が校友会です。

主な活動は7月第一土曜日の総会(各地区の持ち回り)と1月の最終土曜日の新年会です。これらの開催時には、主として新潟生命歯学部・新潟病院の先生に講師をお願いして学術講演会も開催されます。

その後の懇親会には中原会頭、学長、学部長、病院長等をお招きし、母校との親睦を深めつつ、有意義な時間を楽しんでおります。その他にも二十日会(新潟市を中心として)で12月に忘年会を、二十四日会(新発田・村上を中心として)で7月に牡蠣を食す会(講演会併催)を、二十一日会(長岡を中心として)で9月に築の会を開催し、各地区との交流と親睦

を深めております。

昨年度から続いている新型コロナの感染状況も少しは落ち着いてきているようにも思われますが、まだまだ安心して会員と直接会っての行事をおこなえる状況にはならず、今年度は総会を始め、多くの事業を中止せざるを得ませんでした。

大学との連携制度(①健診・人間ドッグ制度 ②図書館利用制度 ③代診派遣制度 ④ダイレクトサポートライン)では現況で許される範囲において大学の協力の下、会員に活用してもらっています。

219万人余りの県民の口腔の健康を守ることを通して全身の健康につながるよう、新潟県校友会全会員が地元母校があるという強みを十分に生かしながら日々診療にあたっています。

宮本 重雄(66回)



生命歯学部

私は第114回歯科医師国家試験を受験し、今年の4月から日本歯科大学附属病院にて臨床研修歯科医として働き始めました。私の学生時代を振り返ることで、これから歯科医師国家試験を受験される皆さんのお力に少しでもなれば幸いです。私が勉強するうえで大切にしていたことは、あたり前のことをしっかりとこなすことでした。普段の放課後は、部活や学生会、体育会とやらなくてはいけないことがたくさんあったので、毎日の授業を大切にしていました。授業は受け身にならず積極的になることで自分にとって大きな成果を得ることができました。

漫然と授業を受けているだけでは結果は出ないと思います。受け身のままでは、何事においてもダメだと感じました。

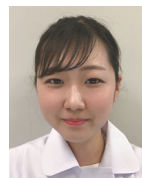
また、勉強へのやる気を起こすことができたのは一緒に勉強していた学習グループの仲間と自分の性格にありました。6年生の時はコロナ禍だったので、大学に行くことはできず、学習グループのみんなとはZoomの画面上でしか顔を合わせる機会はありませんでした。しかし一緒に苦手な範囲の語呂を作ったり、難しい範囲の問題を解いたりすることで、自分だけでは覚えることができなかったこともすぐに覚えることができたり、自分だけでは気づけなかったことも気づくことができてとても良かったです。

また、負けず嫌いな私は定期試験で中

途半端な点数をとりたくなかったので、余裕を持って試験勉強を始めました。精神的な面では常に少しでも焦りを感じるようにし、勉強をしなければならないという気持ちを強く持つようにしていました。

6年間という限られた時間の中で、自分に合った勉強法を見つけ、どれだけ効率良く勉強できるかを見極めることが大切だと思います。何度も心が折れそうになることもあると思いますが、諦めずに頑張ってください。

皆さんが国家試験に無事合格することを祈っております。



附属病院
臨床研修歯科医
松崎 りょう
(110回)

こうゆう先輩 第26回

自分自身を しっかり磨こう!

西村 正美 (78回)

学生の皆さん、コロナ禍の中で毎日の生活が制約されながらの学生生活を窮屈に、また、戸惑いながら過ごしていることと思いますが、このような時だからこそ前向きに物事を捉えて、しっかりと歩んでいってほしいと思います。

私は、平成元年に大学を卒業して、あっという間に33年も経ってしまいました。

6年間は毎日楽しく過ごし、厳しく学び、良い先輩後輩に巡り会えました。まさに私の大切な宝物です。

卒業後は波乱万丈な人生を送り続けています。大学を卒業して研修医2年(当時は2年)終了後結婚し、33歳で東京都中野区で開業し、

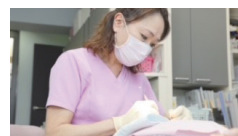
38歳で娘(本学2年生)を出産し、国保審査員、地区歯科医師会理事、参議院議員、校友会常務理事、副会長、相談役などいくつかの経験をして、現在は原点に戻り、開業医として、働くお母さんとして毎日を過ごしています。

歯科医師としての私のモットーは「まちの歯医者さん」です。患者さんが何に困っていて、何を求めて歯科医院にいらっしゃるのかを常に考えるようにしています。むし歯や歯周病などの治療だけではなくお口の中の悩みや日常の困りごとの相談も快く受けています。赤ちゃんの歯の生え方の心配、歯によい食べ物について、口臭やかみ合わせ、舌にできたできもの、ご自宅で介護をしている方へ食べやすく飲み込みやすい食形態のアドバイス、子育ての悩み、そして全身の病気などは連携している大学病院、総合病院の紹介など実際歯の治療よりお話が長い時もあります。ここで大事なことはただ世間話をするのではなく、そこから患者さんのおかれている状況や環境などを知ることにより、

診療はもちろんだ確かなアドバイスや高次医療機関に紹介をすることができるのです。そのためには常に自分自身も勉強をし、輝き続けなければなりません。

学生の皆さんにとっては登校とリモートでの交互での授業、部活もできないなど想像をはるかに超えた毎日だと思いますが、コロナ禍だからこそ感染とは何なのか、その対策はどのようにしていったらよいのかを考えることは歯学部の学生にとって必要なだけでなく、将来歯科医師になる皆さんにとって決して無駄なことではありません。

いつもどんな時も自分自身を見つめ、しっかりと自分を磨いてください。心から応援しています。



学生短信 Tokyo

コロナ禍の以前は、学業や部活に打ち込み、気のおけない仲間との旅行や会食など充実した学生生活でした。しかし、災厄以降は、社会の変容に伴い、私たちの学生生活も一変しました。大学は限られた科目のみ対面実習、それ以外はオンライン講義になり、友人と気軽に会うことさえ難しくなりました。



生命歯学部4年
渡邊 賢二

3、4年になると臨床科目の比重も増し、内容も難しくなりましたが、直接先生に質問できないことや、対面で実習できなかった科目では実技習得できたのか不安の中で暗中模索する日々でした。

私の道程

浮いた通学の労力と時間を、自主独立の精神をもって踏み込んだ勉強に充てるべきだと頭では理解していても、なかなか実践できないことに忸怩たる思いでした。私はとにかく一人きりという環境に慣れなくて、友人とZoomを繋ぎながら学ぶ機会を設けて、試験前はZoomを介して寝食をともにするなど、新しい学習法に行きつきました。歯科医師という同じ目標を掲げる仲間が存在が心の支えになることを強く実感するとともに、今まで当たり前と与えられていた環境や人との繋がりの尊さを再認識しました。

後学期になり、ようやくウイルスとの攻防から解放の兆しが見えてきました。私たちが対面

実習や部活も再開しつつあります。そして、部活の再開に向け、OB先生方と連絡させていただく機会も増え、報連相といった社会人としての常識やマナーも学びつつある途中です。

コロナ禍により得られなかったこともありませんが、逆に気付かされたものの方が多いのかもしれない。

現1、2年生は先生や先輩後輩の繋がりは薄く、“大学生らしくない”厳しい日々かもしれません。しかし、オンラインという新たなツールやSNSなどにより、対面以外でも先生方や友人と繋がることができます。この新しい生活様式を大いに利用して充実した大学生活をともに過ごして参りたいと思います。

『咳事典 咳を科学する その咳、大丈夫? 危険!』

編著: 清益 功浩

出版社: 医薬経済社

出版年月: 2010/4

請求記号: WF143/Ki87

登録番号: 100032800

新型コロナウイルスがまん延する中、「咳」に対して過敏になったり、悩まされている人も多いでしょう。本書で「どんな咳なのか」「どれくらい続いているのか」などを著者のドクターキヨマスの問診フローチャートでたどっていくと、咳の原因がわかり、咳に対する対策を立てやすくなります。これからの季節、ぜひご活用ください。

●図書館開館情報

開館情報はQRコードから閲覧ください。



『歯科オンライン診療の現在』

著者: 尾崎 亘弘 他

出版社: インターアクション

出版年: 2021

請求記号: D2-N

登録番号: 000139649

歯科医師・弁護士・医師が監修している、オンライン診療の仕組みや歯科医療現場での実例をわかりやすく解説している書籍です。ニューノーマル時代の診療スタイルとして耳にするようになったオンライン診療について、今日から実践できるパリエーションの紹介を読んで歯科医療の可能性を広げてみませんか。

●図書館開館情報

平日 9:00 ~ 17:00 土曜日 終日閉館

貸出・返却・閲覧のみの利用になります。

KOYU Quiz

Q. 骨芽細胞を英語でいうと
どれでしょう?

- A Ostocyto
B Osteoblast
C Osteoclast

診療室での物語

カルテ No.30

地域一番の研修施設
を目指す!

さいたま市開業
多保 学
(93回)

日本歯科大学生命歯学部を2004年に卒業してから今まで、がむしゃらに知識と技術の研鑽に励んできました。日本歯科大学の臨床研修医修了後、総合診療科の歯周病チームでさらに勉強して歯周病専門医を取得しました。その後『歯周病で失った組織・機能をどのように再生するか』に興味があり、アメリカのロマリンド大学インプラント科の大学院に留学しました。3年に及ぶ留学生活では『どのような根拠で治療を選択するか。どのような根拠でその材料を選ぶか。』エビデンスベースで治療選択をおこ

う考え方的重要性を学びました。この留学で知識や手術技術の習得はもちろん、自分自身の物事の考え方の根底を変えることができました。

帰国後、2015年にさいたま市に『たば歯科医院』を開業しました。医院理念の中の1つにもアメリカで培った考え方を基に『教育施設』を掲げております。歯科医師1人が1日にしっかり診療できる人数は限られており、救える患者さんの数にも限界があります。自身の培った教育スタイル・知識・技術を若手歯科医師に伝授すれば、さらに多くの患者さんを救えると考え、理念の1つに入れました。現在臨床研修指導医が4名在籍しており、日本歯科大学の協力型施設として臨床研修医を毎年受け入れ、当院の若手歯科医師とともに教育にあたっています。また、私の専門である歯周病分野で日本歯周病学会歯周病指導医を取得し、『日本歯周病学会の研修施設』として認定を受け

○ 歯周病診療科、歯周病専門医、歯周病専門医

○ KOYU Quizの答え

ました。2021年現在までに認定歯科医師3名、認定歯科衛生士2名を輩出しております。現在は私自ら3か月に1度、2日診療を切り、歯科医師と衛生士に歯周病インプラントについて講演会をおこなっております。また毎週1

日診療を切り、指導医による3年目までの若手歯科医師の知識と技術研修を実施しています。今後さらに地域で1番の研修施設を目指し、多くの優秀な医療人を育て、より多くの患者さんを笑顔にできるよう邁進して参ります。



毎週行っている症例検討会。歯科医師全員で診査・診断と治療計画をディスカッションしている。

歯科医師対象に、脈管を使用し歯周病とインプラントの技術実習をおこなっている。



特別診療室にはカメラが設置されており、隣の研修室にてライブオペが見学できる。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

